

大阪大学外国語学部 トルコ語専攻紹介



海外交流

大澤 孝*

Turkish Section, School of Foreign Studies, Osaka University.

Key Words : Turkish, Eurasian Steppe, Islam

1. トルコ人とトルコ共和国

日本では、一般に「トルコ」というと東西文明の十字路、などと形容されるように、今日の中東世界の中では、小アジア（アナトリア）とバルカンの一部を含む現在のトルコ共和国を想起されるのではなかろうか。現在、トルコ共和国は約7000万の人口を抱え、99%がイスラーム教徒であり、ここ数年でGDP成長率8%前後の経済成長率を示す新興国家でもある。トルコ人といってもその顔立ちは様々で、印欧系から蒙古系まで幅広いが、古代ギリシア人やローマ人の居住地であったこともあり、印欧系の人が目には付く。

古来、幾多の帝国が当地に興亡し、様々な来歴を持つ人々が、陸・海を経て当地に来ては通り過ぎていった。特に黒海とマルマラ海を繋ぐボスホラス海峡に臨むイスタンブールは、紀元5世紀頃の古代ギリシア時代にはビザンティオン、ローマ時代にはビザンティウム、そしてコンスタンティン大帝以降の東ローマ帝国（ビザンツ帝国）期にはコンスタンティノポリス（コンスタンティノープル）と呼ばれ、やがてオスマン帝国の征服後にはイスタンブールと改称され、今日に至った。この地を制する者が世界を制するとの言もあるように、ユーラシアにおける地政学的最重要拠点の一つである。

オスマン帝国は最盛期には小アジアから北は東欧

のオーストリアやハンガリー、南はアラビア半島のイエメン、東はカスピ海方面からイラン、そしてイラク方面、西は北アフリカのエジプトからチュニジアなど地中海世界を制圧したイスラーム体制国家であった。しかし19世紀に入ると産業革命を経て技術革新や経済力で徐々にその影響力を増していった西欧諸国に比して、相対的な地位は低下させ、西欧的な近代化を余儀なくされ、遂には第一次世界大戦への参戦とその敗北により、1922年には解体した。現在のトルコ共和国はその前身のイスラーム国家体制を否定し、新たなナショナリズム理念に基づく「トルコ民族国家」として1923年10月に建国の父ムスタファ・ケマル・アタテュルクにより創設された。

2. 日本とトルコの文化関係

またトルコは世界でも最も親日的なお国柄である。歴史的に言えば、日本とトルコとの直接的な交渉は、明治初期に遡る。即ち1887年に小松宮彰仁親王・妃殿下がイスタンブールを訪問し、当時のオスマン帝国のスルタン・アブデュルハミト2世を謁見したこと、そしてその答礼使節団として1889年にオスマン政府が軍艦エルトゥルル号を派遣して、オスマン提督が明治天皇に表敬訪問したことである。

トルコでも近年、前述したエルトゥルル号の遭難事件で難を逃れたトルコ人船員を和歌山県串本沖の村人が献身的に救護した行為や日本全国で展開された義援金運動等によく知られている。また1904年に勃発した日露戦争における日本の勝利の際には、オスマン帝国の仇敵であったロシアをアジアの同胞、日本が打ち破ったことを我が事のように喜び、イスタンブール市内に「乃木坂」や「東郷通り」と命名された地名があったことなどは、親日ブームの源流とされる。こうした明治政府に対しては、トルコ共和国の父であるアタテュルク大統領も近代改革の先



* Takashi OSAWA

1961年3月生
北海道大学大学院東洋史学博士後期課程
単位取得退学
現在、大阪大学 言語文化研究科 教授
文学修士 中央ユーラシア史
TEL : 072-730-5301
FAX : 072-730-5301
E-mail : osawatak@lang.osaka-u.ac.jp

鞭国と崇拜し、目標に掲げていたことが彼の生前の資料からもはっきりと見て取れるのである。現在でもアンカラにある最高のブランド靴の商店はTOGOと命名されて残されている。

3. トルコ語学科の紹介

こうした親日的なトルコではあったが、日本でトルコ語学科が成立をみるのは意外にも遅い。それはペレストリカ（再建）やグラスノチ（情報開示）政策により改革を進めたソ連のゴルバチョフ大統領の時代の1991年にソビエト連邦が崩壊した翌年の1992年のことであり、先のエルトゥルル号事件からおよそ100年後の、極めて最近事のことである。

その背景には、旧ソビエト連邦崩壊後にその配下にあった中央アジア諸国の多くがトルコ系イスラーム諸国であったこと、そしてこの乾燥ベルト地帯には多くの石油、天然ガス、石炭、鉄鉱石等の鉱物資源が豊富に埋蔵されていることに目を向けて、新たなユーラシア外交を展開する上での重要性がようやく認識されたがためとも考えられる。

ともあれ、本トルコ語専攻はこうした経緯を経て、1992年に東京外国語大学と大阪外国語大学に同年に設置され、今年で21年目を迎えることになる。その後、2007年には旧大阪大学と統合して、大阪大学外国語学部トルコ語学科として今日に至っている。

現在、トルコ語専攻では、日本人の専任教員3名、トルコ語のネイティブ教員1名の体制で、毎年18名前後の新入生を迎えている。現在のトルコ共和国の公用語である共和国トルコ語の教育と研究をベースに行っている（写真1を参照）。専門前期の授業は、アンカラ大学附属のトルコ語教育センターから発行されたHitit1, 2の教科書を語学教材として、学年ごとに使用し、文法、講読、作文、会話の各部門では専任教員が担当して基礎語学力の養成に努めている。また専門後期では、言語学、文学、歴史文化学など専任教員の各専門に応じたゼミによる少数教育を実践して、時事的な語学力のみならず、思考力や発進力を高めるためのプレゼンテーションなどの授業、また専門知識をより高めるための輪読授業、そして会話力の養成を図る授業などの他に、各種の分野に跨がる専門家による授業も行われている。

また国際交流事業としては、本学教員は各自の専



写真1

門に応じて、トルコ共和国のアンカラ大学、ビルケント大学やエーゲ大学、ムーラ大学などで講演や講義を行うなどの他、各種のプロジェクトを通して、中央アジアのウズベキスタン、カザフスタンでの現地調査、さらにはモンゴル国やハカス共和国やトゥバ共和国などでは現地の研究所と共同調査を行うなど多様な形での学術交流を行って来ている。また本学の学生もアンカラやイスタンブールの諸大学に私費留学などをして学生間交流を深めてきており、今後の更なる交流協定を通して、今まで以上の学術交流の活発化が期待される。

4. トルコ語とその使用分布の概要

今日のトルコでは、かつてのオスマン帝国の支配エリート層が使用していたアラビア文字で記されるオスマン＝トルコ語は使用されていない。アタテュルクによる1928年の文字改革により、ラテン文字を使用する。その中には、母音ü, ö, ıや子音のş, çなどの変形文字も含まれる。言葉もイスタンブール方言を標準語として、今日では教育言語として定着している。現在のトルコ領に住む少数民族マイノリティーのギリシア系、アルメニア系、クルド系、アラブ系やコーカサス系の住人も、トルコ語による公教育を受けている。

トルコ語は、モンゴル語や満洲語、さらには朝鮮語などのような所謂アルタイ系言語、や膠着語と呼ばれる言語体系に分類される。その特徴は、母音調和と呼ばれる法則を共有することである。例えば、舌の前方で発音される前舌音と舌の後方で発音される後舌音があり、単語や句などは同じ系列の母音に

統一されて発音されるのを特徴とする。その意味でも、奈良時代の日本語の特徴とも対置できる。また文構造でも日本語などと極めて近い。例えばトルコ語は英語のように、主語—動詞—目的語 (SVO) の形ではなく、主語—目的語—動詞 (SOV) を基本形としている。なお、トルコ語では動詞語幹のあとに、時制を示す付属語、そのあとに活用形がきて、最後に人称語尾が来る。この点は日本語と異なる。

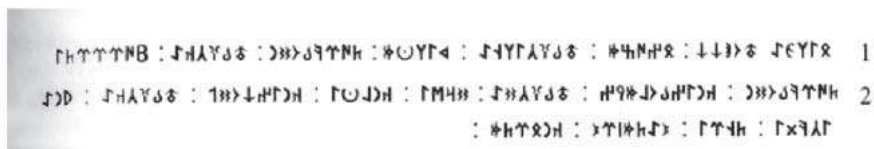
またトルコ語最古の突厥語は後8世紀には成立していたが、これは万葉仮名で記された「万葉集」や「日本書紀」が成立した奈良・天平時代に当たる。中国大陸の唐から砂漠を挟んだトルコ人と海を隔てた日本人が、奇しくも同時期に独自の文字文化を開花させた。その後、トルコ人は遊牧騎馬という手段で、ユーラシア草原を東西に駆け抜け、9—10世紀には中央アジア地域にトルコ語化を進めて行くとともに、11世紀頃には自らイスラームを受容し、トルコ系イスラーム国家を樹立させる。こうして西アジアから小アジアにかけてトルコ=イスラーム文化圏が幅広く成立した。今日のトルコ語語彙にアラ

ビア語やペルシア語語彙が含まれるのはこうした事情による。ユーラシアに広く分布するテュルク諸語は、現在では約20諸語として分類されている。

今日の中央アジア諸国の多くではソ連の成立と第二次世界大戦後を通して、ロシア (キリル) 文字の影響下で独自の記号を加えた文字改革が行われ、ソ連崩壊まで使用されてきたものの、今日では独立国家の表象として、アゼルバイジャンやトルクメニスタンなど、ラテン文字を採用するなどの国々もみられる。

コラム

図1には、西暦8世紀前半にモンゴル高原で当時の突厥の軍事司令官であったビルゲ=トニユククという遊牧戦士の墓に建造された紀功碑文に記された古代テュルク・ルーン文字テキストの一部を提示する。そしてそれを今日のトルコ語標記に置き換えた共和国トルコ語テキストと筆者による和訳を示しておきたい。



- 1 (B 1) Bilge Tunyukuk ben kendim Çin yönetimi sırasında doğdum. (Bir zamanlar) Türk halkı Çin'e bağlı idi.
 2 (B 2) Türk halkı hanını bulamadığı için Çin'den ayrıldı, han sahibi oldu. (Sonra da) hanını terkedip yine Çin hakimiyetine girdi. Belli ki Tanrı şöyle demiş: "Han verdim.

図1：突厥トニユクク碑文、西面1—2行 (約726年頃) のルーン文字碑文と現代トルコ語訳

本執筆者による和訳：

- (1) ビルゲ=トニユクク、私自身が中国の支配期に生まれた。(あるとき) テュルク部民が中国に服属した。
- (2) テュルク部民はそのハン (君主) を見つけることができなかったので、中国から離反した。ハンを持つ者となった。(その後は) そのハンを放棄して、再度、中国に服した。はっきりと、天神は次のように仰った「私はハンを与えたのだ...」